

令和5年度

牟岐町立牟岐中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的に学習する生徒を育てるわかる授業の確立。
- ②体験活動や言語活動の充実。
- ③保小中の系統的な学習方法の確立。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 瀧川真理子	委員 学校長 木下 敦志 教頭 中口 崇
	教務主任 坂田 博紀 1学年主任 瀧川真理子 2学年主任 居村 雅人 3学年主任 田上 正史

校長

木下 敦志

【小中連携または中高連携における共通の取組】

授業の中で、一時間に一回以上、自分の考えを表現する時間を確保する。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職や教員による相互授業参観や情報交換を通して、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度は良好で、朝自習も集中して取り組んでいる。「ながら」学習しないように意識している生徒が増えた。 ●聞く力が弱い。授業内容の理解度が低下しつつある。家庭での学習習慣が身につけていない生徒が多い。	①意欲的に授業に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ②学習方法を身につけ、自主的に学習に取り組むことができる。	①相互授業参観を学期に1回実施し、授業の工夫・改善を目指した職員研修を行う。 ②授業では「ふり返り」の時間を確保し、課題は計画的に取り組んで提出させる。 ③家庭学習調査を実施し、計画的に勉強に取り組むよう意識付けをする。	・生徒の主体的な学習活動が促進されるような授業計画を立てる。 ・基礎的・基本的な内容の定着を図るため、小テストやタブレットでのクイズなどを授業中に行う。	学習アンケートより、「学習内容をノートに整理している」は88%、「授業内容を理解している」は86%と前年度より向上している。しかし、「宿題を毎回必ずしている」74%、「家庭学習をしている」47%と家庭における学習習慣の定着が不十分である。	授業態度は良好だが、学力定着に向けた取り組みや、教員の授業力向上に向けた取り組みを継続していく。家庭学習で、学習習慣の定着や「ながら」勉強をしないなど家庭と協力して学習の質的向上をめざす。また、宿題の内容を工夫する必要もある。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○班活動で、自分で調べたことや考えたことを発表させることで、意欲的に言語活動等に取り組む姿勢が見られた。 ●授業中に考えて発表することや、考えを他の人に説明することに対して苦手意識がある生徒が多い。	①すべての授業を通して、自分の思いや考えを正しく表現できる。 ②異年齢集団や地域の人との交流を通して、積極的に発言し、意見をまとめることができる。	①すべての授業に言語活動を取り入れる。 ②保・小・中で「表現力向上」に重点を置いた取組を行う。 ③異年齢集団や地域の方と連携し、生徒主体の体験的な活動を通して、学んだことを発表し、表現する力を伸ばす。	・新聞を使った感想・意見文を書く機会を設ける。また、1分間スピーチや、全校生徒の前で表現する場を確保する。 ・異年齢集団や地域の方と交流する機会を活用する。	学習アンケートより、「教員の発問に対してよく考えて表現しようとしている」58%、「授業などで自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが出来る」63%であり、表現に苦手意識を持つ生徒が多い。	教員アンケートより、「一時間に一回以上、生徒の考えを表現させる」63%であり、表現の機会を確実に確保していくことが必要である。また読書が好きと答えた生徒が4割を切っている。読書活動の推進が望まれる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に前向きに取り組む姿勢が見られ、生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。 ●分からないときに諦めてしまう生徒が多く、探究心を持って取り組もうとする生徒と二極化傾向が見られる。	①学ぶ楽しさや喜びを感じて、自信をもって粘り強く続けることができる。 ②自分の課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	①主体的な活動や、意欲を高め、成功体験を味わうことができる活動を取り入れる。 ②情報交換を密にし、生徒理解を深めて、個に応じた指導を行う。 ③仲間と助け合い、協力し合えるような集団づくりを目指す。	・個に応じたスモールステップの指導を行う。 ・よりよい集団づくりに向けて、教職員間での情報交換を密にする。	学習アンケートより「分からないとき、あきらめないで考えている」67%、「疑問に思うことを自分で調べている」65%、「目標を持って学校生活を送っている」59%で、前年度より向上したが低い状況である。	学習に関する自己肯定的な意見が低い。授業中に活動を増やすなど、自ら学ぼうとする場面づくりや、学ぶ楽しさや喜びが実感できるように工夫した授業づくりに取り組む。個別対応にも取り組む。

令和5年度 学力向上ロードマップ

